

## 平成23年度第2回奈良市社会教育委員会議会議録

開催日時 平成24年1月25日（水） 午前10時～午前12時

開催場所 奈良市保健所・教育総合センター 8階 多目的講座室

出席者 【委員】 天野秀治 委員、大坪宏通 委員、奥田益三 委員、  
北畑 一 委員、後藤康子 委員、小林 勉 委員、  
杉峰英憲 委員、竹内 寛 委員、巽 正 委員、  
玉置敦子 委員、畑中康宣 委員、東口明史 委員、  
東出和彦 委員、山中和代 委員、山中尚子 委員、  
横井雄一 委員  
〔 欠席 打谷幹男 委員、向野幾世 委員、  
谷口早百合 委員 〕

【事務局】 教育総務部長、教育総務部参事、地域教育課長、  
人権政策課長、文化財課長、埋蔵文化財調査センター所長、  
スポーツ振興課長、中央図書館長、北部図書館長、  
生涯学習財団常務理事、地域教育課職員  
〔 欠席 教育長、学校教育部長、西部図書館長 〕

案 件 1 各大会の参加報告について  
2 今後の社会教育委員会議の取組について  
3 その他

開催形態 公開（傍聴なし）

担当課 教育総務部 地域教育課

◎ 教育総務部長 開会挨拶（教育長代理）

◎ 会議録について、従来どおり要点を記載した会議録を作成する。

会議録署名委員 玉置 敦子 委員 畑中 康宣 委員

## 案 件 1 各大会の参加報告について

※会議長より、台風による中止及び委員不参加の各大会について、事務局より報告の旨を説明し、各委員より報告。

### ○第43回奈良県社会教育学校

後藤 康子 委員参加

後藤 康子 委員から発表（資料1）

7月7日（木）にかしはら万葉ホールで開催。

## 委 員

「社会的親を育てる社会教育～見て見ぬふりする社会から、おせっかいな社会へ～」京都府社会教育委員連絡協議会の会長 杉本厚夫 氏  
今の子どもは孤立するのが嫌で、「かくれんぼ」と「はないちもんめ」といった遊びがなくなり、「だるまさん転んだ」のルールも変わっています。子どもの居場所は役割があることで、日常的なボランティアで相手のことが思えるようになるため、震災の子どもたちにも役割を与えるように助言しているということでした。

元来、人間は生まれながら社会に適応できるようになっているが、育つ過程で社会との関係を切るようになっており、「自分でしなさい」は自立の言葉ではなく孤立の言葉であるということでした。

そして今は、知らない人と会う機会がなく、近所の人に叱られたことがない人がほとんどなので、おせっかいな社会を作っていくことが必要で、近所に社会的親がいるかどうかが重要である。社会的親がいることが豊かな社会と言えらると思うし、これからどのような社会を作っていくか、はっきりさせないといけない。とおっしゃっていました。

社会的親が必要ではないかという提案でしたけど、今の子どもたちは、友達という横の関係中心で、親や先生という縦の関係が希薄で、斜めの関係、いわゆる筋交いがなくなって非常に弱くなったと私も強く感じています。また、社会教育委員の役割は社会的親育てではないかなと思います。

私自身、公民館に三十年間通い続けて、その中で横の関係を作っていくのが難しいと思いますので、誰でも社会的親になれるかという、

そうじゃないと思います。結局、長い間の関わりや危ないことは避ける社会の風潮が、社会化の力を落としていると思います。

社会教育委員は団体から出ていますので、何かそういうプロジェクトを立ち上げて、何でもいいから三年継続して、それでまずい事があつたら少しずつ変えていくような、先を見越した長期のことをしたらどうかと思います。

○第53回全国社会教育研究大会 兼 平成23年度近畿地区社会教育研究大会

向野 幾世 委員・玉置 敦子 委員 参加

玉置 敦子 委員から発表（資料2）

9月21日（水）・22日（木）に

京都会館・宇治市文化センター及び中央公民館他で開催。

委 員

「度重なる震災からわたしたちが学ぶべきこと」、前大阪大学総長の鷺田清一氏の基調講演。

まず、五月に仙台に行かれた際、図書館の前に長い行列ができ、震災によって閉じこもっていた人たちが外に出て、「みんな大丈夫だった。」とお互いに声がけをした状況、突然に町と心が一遍に開いた様子を目の当たりにしたということでした。

次に、幸福とは何かという話をされ、「本当に人間が大切にしなければならぬものは、どういうことなんだろう。」という問いかけをされ、「幸福というものは、得たものの大きさではなくて、失ったものの大きさによる。本当に大事なものは失ってみてわかる。」という話をされました。

また、「文明が進めば進むほど、人は無力・無能力になっている。文明の装置が崩壊し、原始生活以下の生活になっていく。地震が起こった時に帰宅難民ができ、当たり前と思っていた生活が全て異様に感じたのではないだろうか。原発の安全性も、見えていたけど見てこなかったんじゃないか。禍福は糾える縄の如しである。」と説明をされました。

過去には、防災も自分たちでやってきたけれど、今は何もできない人々が増えてきた。そして、受け身になり、行政・民間・サービスに文句をつけるクレーマーになっている。住民が共同で事に当たることがなくなってきたので、お互いに頼り合い・助け合う仕組みが大事ではないかと話されました。

私たちも人に関わらない生活をしており、例えばニュータウンの生活は、普段でも鉄の扉の中に閉じこもっている。昔は見て見ぬふりをしながら地域のことをしっかりと見ていたが、今は、見ても全く知ら

ない顔をしているということでした。

いざとなったら使えるコミュニティ、受け身でない市民として成熟し、市民の新しい公共を担うネットワークを実質的なものにしていく地域のリーダーの養成が必要である。また、リーダーというのは統率力ではなく、お互いに交代しつつ、本務プラスアルファの中で一人の住民として全体を気遣い、しっかりと考えているものであるということでした。

最後に、「梅棹忠夫先生のリーダーシップより」ということで、「請われれば一差し舞える人物になれ。」「退却する時は、殿を務められる人物であれ。」、即ち、みんなのことを考えられる人になれということ、話は終わりました。

私たちが、新しい公共をキーワードとして話し合ってきたこと、その理念がきちっと証明されたという納得をさせてもらいました。

分科会では、地域を育てるということ、それぞれの実践を報告されました。そこで、ポスターセッションという新しい経験をしました。京都府の各地域の取組を一枚のポスターにまとめてオープンスペースに提示されていて、そこに実践者・社会教育委員の方が立っていて、直に参画しながら話ができ、理解をすごく助けていただき、人と人とのぬくもりを感じることができました。

会議長

ありがとうございました。公共については、いくらでも言うことができるけれども、個人の態度の取り方が非常に難しいと思います。

また、おせっかいというのは、人間の発達において非常に大きな社会化の課題と個人化の課題であり、その両極のバランスの中でおせっかいが行動されなければ生きてこないんだなと聞いておりました。

ヨーロッパ社会では、キリスト教の中にありますので、間接的に上手く機能しているんですけど、日本では直接的なおせっかいになり、非常に難しくなる。そして二の足を踏んで社会的な本当の親になれないのかなと感じました。

各委員のご報告でございましたが、なにかご意見等、お伺いしたいということがございましたら、お願いしたいと思います。

よろしいでしょうか。それでは、案件2に移らせていただきます。

◎案 件 2 今後の社会教育委員会議の取組について

会議長

それでは、次に案件2、「今後の社会教育委員会議の取組について」ですが、今年度のテーマを引き続き検証していくのか、それとも新た

なテーマと小委員会を設けていくのか、また、小委員会制か違った組織を考えていくのか、ある程度の方向付けをしておいたらと思います。それを次年度以降に引き継いでいく課題としたらと思いますので、これまでの活動を少しお考えいただきたいと思います。

まず、提言書の経過等について事務局の方から説明をお願いします。

地域教育課長     それでは、提言書に関わる対応につきまして、地域教育課からご報告申し上げます。

まず、提言自体の広報並びに関係各課の整理等を行うよう、教育委員会より指示を受けました。

広報につきましては、全国社会教育研究大会の資料ブースに、本提言書を約二百部設置しまして、こちらは全国から参加された方々にお持ち帰りいただきました。そして、社会教育の関係各課への提言書の配布を行うと共に地域教育課ホームページへ提言の掲載を行い、周知を図っております。

ただ今、新年度の予算策定の最終段階に入っております。新年度の予算への反映状況は、まだ把握をしきれていない段階でございます。新年度の予算が確定しまして、各課に再度ヒアリングを行って資料としてまとめ、新年度のこの会議にはご報告できると思います。

会議長           はい。ありがとうございました。

なにかご意見等ございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。では、これが機能していくようご尽力いただきたいと思います。

それでは、来年度に向けての申し送りですが、概略をまとめておいたらと思いますので、何かご意見はありませんでしょうか。

委 員           五月の議事録を十二月にいただきましたが、少なくとも一週間から二週間で出していただきたいと思います。

それから、提言書を出したら、もう少し早めに教育委員会としての対応や回答を教えて欲しい。実際の施策に反映する前に出していただくとうれしい。お金がなくてもできることはあると思いますので、ぜひ施策を早くやっていただきたい。また、結論・結果を早く周知して、回答いただくようお願いしたいと思います。

会議長           はい。ありがとうございました。確かにレスポンスは速い方がいいと思います。これからは、活性化できるような速いレスポンスをしながら、コミュニケーションの窓を開いたらどうかという反省でございます。

来年に向けて、社会教育委員会議を活性化していくために、迅速な対応が見えるような形にするというのを一つの申し送りとさせていただきます。

委員

何をするのかに関係するんですけど、社会教育委員会議が提言をするところなのか、それとも活動をするところなのかというのを、去年・一昨年からも議論してきたと思います。そして今回は、提言をさせていただきます。

それで、今年度の提言は非常に範囲が広がっているので、回答が遅いのはやむを得ないかと思います。もう少し活性化するという意味では、小さな問題に絞っていったらどうかと思います。

例えば、奈良市には図書館がたくさんあります。そこが、どういう目的や目標を立ててやっているかよくわからない。協議会があると思いますが、もう少しはっきりした目標を立てて、それに対して取り組んでいただきたい。できれば社会教育委員会議も一緒にやっていくのはどうかと思います。例えば、開館日や休館日をどうするか、どういう活動を図書館としてやっていくかということです。

それと、社会教育委員会議を通して、私の団体も含めて各団体に補助金を出させてもらっています。補助金を出しているからには、もっと強力に要望すべきだと思います。それに対しての結果についても、しっかり取り上げていただきたい。

また、もっと活性化するにはどうすればいいかと常に思っていますし、いろんな団体の責任者である出席者の方も、皆さん悩んでらっしゃると思います。社会教育委員会議としても、そういうことに積極的に関わって助言していくということも良いと思います。

ただ、全員で関わり合うのは非常に難しいので、小委員会なりタスクフォースなり、時間が取れる方2・3人でもいいから、団体の責任者の方と議論するような場を作ったら良いと思います。そうやって具体的に取り組んでいけば、もっと活性化していくと思います。

会議長

ありがとうございました。レスポンスを速くしていくことの具体的な関わり方をお話になったと思います。

提言自体は、目的として非常に大きな目標であるし、また内容的にも非常に広い範囲を持っています。その大きな目標の中にある小さな目標に、いくつも重要なものがありますので、来年に向けては、それを理論化、活動化していく具体的な指針を出していけばと思います。

社会教育委員会議のメンバーが入り、提言・助言していくことによって社会的な公共的事業が活性化されてくる。ここで役割が果たせる

のではないかというご提案でありました。

その指針の裏付けとして、事務局にお伺いします。社会教育委員会議を通じて補助金を出していますが、その補助金の使途や目的等についてのご報告は、大体どの程度の内容があるのでしょうか。

地域教育課長 補助金の交付につきましては、事業計画書、団体の規約、予算書、それと事業終了後の事業報告、決算報告等を詳しく書いていただいて、活動の内容や趣旨が具体的にわかるようにご説明いただいております。

また、別に要望書を書いていただき、補助金の趣旨をしっかりと確認する機会を作ったり、個別にヒアリングをして、適正であるか判断して報告しています。そして、今までの経過や活動の規模など、様々な要素を組み入れて補助金を決定しております。

会議長 わかりました。かつて、そのプロセスの中に、意見を具申してもいいのではという意見もありました。今回、さらにそれを題材にして、社会教育委員として果たせる役割があるのではないかというご発言でしたが、そういうプロセスの中で、もう少し具体的にどういうことがあればいいとお考えでしょうか。

委員 私の団体では、地域に協議会を作って研修会をやるとか、市全体の協議会を作って講演会や研修会をやったりしています。それが本当に活性化に向いているのか常に思っていますので、興味・関心があるような委員の方、何人かに集まっていただいて、一緒に相談させていただく会があったらいいと思います。その提案が違うこともあると思いますが、提案なり、外部の目で見えていただいてもいいと思います。

会議長 大きく言えば資金の流れですので、非常に難しい話です。慣例的に奈良市として行われてきたことについて、その資金の更なる活性化という意味で、公共という大きな立場から働きかけができるのではという話だと思います。これにつきましては、もう少し事務局の方と話を詰めて、具体的な提言というのが実現でき、活性化につながるような形で何か申し送れないか、もう少し話し合っていきたいと思います。

それでは、他にございませんでしょうか。

委員 分科会をやめてしまいますと、年に一・二回集まるだけの社会教育委員会議に戻ってしまいます。他のところでは非常に大きな活動をされておられる中で、奈良市の社会教育委員会議が何をするのが非常

に重要だと思えます。

ご提案のありました「社会的親のプロジェクト」、これと「図書館」、このあたりを次年度の分科会のテーマにしてはどうかと思えます。

動く社会教育委員会議なのか提言する社会教育委員会議なのか、これは非常に重要です。動くというのは中々難しいですが、この社会的親というキーワードは、社会教育の中の分野として、地域での教育と青少年育成というところに当てはまると思えます。ですので、この社会的親というのをキーワードでやっていけばどうかと思えます。

私の理解では、実の親ではないけれども、地域社会それぞれの人が少しでも地域の子育てに協力しようというのが社会的親だと思えます。その実現のためにどうしていけばいいか、そういったあたりの提言を、小委員会・分科会で考えていけばよいかと思えます。

それと、今年の成人式は非常に評判が良かったのですが、何をどう変えられたかお伺いできればと思えます。

会議長

はい、わかりました。それでは、成人式、何をどう変えられたかというご質問でございますが、いかがでしょう。

地域教育課長

はい。ご報告申し上げます。変えたところは、はっきり言って何もございません。ただ、今までの提言をいただいて工夫しましたのは、対象者に馴染みやすくして、新成人代表の自主的な運営でしっかりやっていくことでした。

まず新成人の代表をどのように選ぶかですが、しみんだよりだけでの公募では応募者がございませんでしたので、高校のOBの方や大学といった対象者がいる場所に直接広報をいたしました。その結果、六名の代表に集まっていたいただき、我々の運営趣旨を説明した上で、その新成人の意見を尊重しながら運営していきました。

また一つの大きな変化としましては、ボーイスカウトやガールスカウトの方々もご協力いただいて、昨年にも増して呼びかけをさせていただき、新成人たちがたくさん入ってくれました。そして、昨年と同様にウェルカムコンサートを行い、固いイメージをなくすことに主観をおいて案内させていただきました。今まで、多くの子どもたちが会場内外で同窓会をしていたんですけども、それが今回、たくさん会場に入って、ほとんど満席になりました。また、全体の進行を妨げることはあまりございませんでしたし、あっても簡単な注意で引き下がってくれました。

その辺は、子どもたちの理解、その場の全体の空気を壊さないという空気が成人式の中にあっただように思います。ですから、マナー、そ



の場の空気に馴染むといったことに関しては、新成人が成長しているのかなと感じているところでございます。

会議長

ありがとうございました。大きな枠組みが変わっていない中で、バランスの取れたマナーが文明化してきたというところだと思います。

ボーイスカウトやガールスカウトの子どもたちも、昨年より馴染んだ形で誘導がなされていきました。これまでのご努力が、少しずつ実現されてきているという印象でした。

それで、成人式とは何であるのかというのが、少しずつわかってくるようなきっかけが必要だと思います。この中で、委員の提案にありました来年度に向けての課題、社会的親の育成というようなプロジェクトが一つで、もう一つは図書館活動についてのプロジェクトです。

これを、小委員会のような活動的な組織で集中的に議論し、それを本会議に向けて提案するという、これまでのやり方を発展的に継承していった方が良いというご意見でしたが、どうでしょうか。そのことについて申し送るということで、ご異議等あるいは付加する意見等ございましたらお願いしたいと思いますが。よろしいでしょうか。

それでは、来年度に向けての方針としては、小委員会を継続する。そして大きなテーマの枠組みとしては、社会的な親ということでイメージされる具体的な目標、これに向けての議論と活動、さらに具体的に何をどうするかですが、例えば具体的には資金の援助においての方針やプロセスなどの意見を申し上げる。このことについて、慣例的な中で許されている変更がどのあたりなのか、これを少し事務局と詰めて、来年度に向けての方針という形で申し送りをさせていただきたいと思います。

それでは、その他に移らせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

案 件 3 その他

会議長

その他でございますが、何かございませんでしょうか。

委 員

奈良市の教育委員会のメンバーは学校の先生か PTA といったメンバーです。ぜひ、社会教育関係のメンバーも入れていただくような行動を取っていただくとありがたい。

また、今日も傍聴の方がおられません。非常に残念なことです。ぜひ、傍聴が出るような活発な活動をできるように考えたらと思います。

そして、何も言われてない方がたくさんいらっしゃいますが、皆さんぜひ一言くらいでも話していただきたい。

会議長

ご発言いただいてない方々がたくさんいらっしゃいますが、もっと気楽にお話いただければ、皆さんに共有されるのではないかというご意見であったと思います。

教育委員会に、社会教育関係のメンバーがいないということについてですが、社会教育の分野についても、生涯教育に近い世界でいらっしゃったと思いますが。

委員

金春先生は社会教育分野の方です。芸能文化、芸術とか美術とかの方だと思います。

会議長

人事の件に関して言う権限が、どれほどあるかどうかわかりませんが、少し努力してみたいと思います。

それと傍聴について、目に見えて緊迫感があって判断が迫られるような活動がなされていけば、興味を持って傍聴者として出席いただけると考えますので、広報活動を含めて少し事務局と話をし、申し送りとさせていただきたいと思います。

他にございませんでしょうか。

委員

市の校舎長会の代表で参加させてもらっています。

どこでも誰でも学習できる場の構築は、もう十何年も前から一向に変わってないというのが正直な思いでございまして、その意味では、本当に一年間いい勉強をさせてもらったと思っております。

来年度からは二年続けて来られるメンバーを選出するつもりですので、今後ともよろしく願います。ありがとうございました。

会議長

引き続き来られる方についても、期待させていただきたいと思いません。ありがとうございました。

ほかには何かございますか。よろしいでしょうか。

事務局

(参加報告無しの大会等に係る説明)

平成二十三年度人権教育シンポジウム

大会当日、委員欠席のため報告無し。(資料無し)

第二十三回奈良県社会教育研究大会

台風十二号の接近に伴う中止のため、資料のみ配布

会議長                    ありがとうございます。任期満了による改選に伴って退任される方がおられますので、ご紹介していただきたいと思います。

司会                      (退任者紹介)  
                             後藤 康子 委員・巽 正 委員・玉置 敦子 委員  
                             東口 明史 委員・山中 和代 委員・山中 尚子 委員

各委員                    (各席にて挨拶)

会議長                    ありがとうございます。それでは、これをもちまして平成二十三年度第二回奈良市社会教育委員会議を終わらせていただきます。

◎ 閉 会